

2014年3月期 決算報告 個人投資家の皆さまへ

第一生命保険株式会社

証券コード: 8750

一生涯のパートナー

第一生命

2014年3月期 決算のポイント

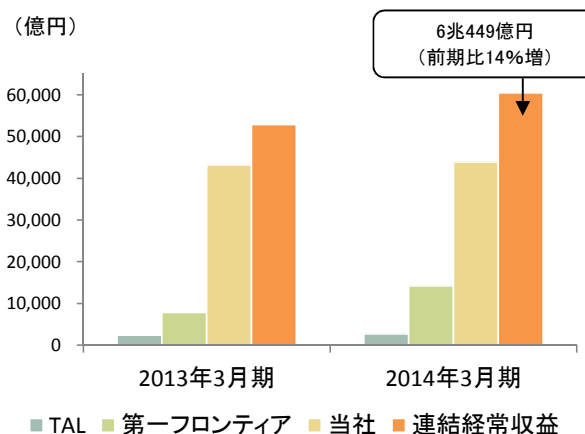
- 2014年3月期の連結経常収益は前期比二桁の増収となりました。第一フロンティア生命の保険販売が当初予想を大幅に上回ったことに加え、国内の第三分野・オーストラリアのTAL社の堅調な保険販売等、成長分野への積極的な取り組みが奏功しました。
- 連結経常利益・連結純利益は大幅増益となりました。良好な経済環境を背景として、当社単体の逆ざやが順ざやに転じたこと等が寄与しました。
- 2015年3月期の連結業績予想は、金融・経済環境に関して慎重な見方をしていること等から、減収を見込んでいます。一方で、第一フロンティア生命の収支改善や海外事業の順調な利益拡大により、純利益は増益を見込んでいます。

(1) 経常収益

連結経常収益は6兆449億円（前期比14%増）となりました。

第一フロンティア生命（以下、「第一フロンティア」）の保険料等収入が増加したことに加え、オーストラリアのTAL社（以下、「TAL」）をはじめとする海外子会社の保険料等収入も増加しました。また、当社単体の資産運用収益も増加しました。

経常収益実績

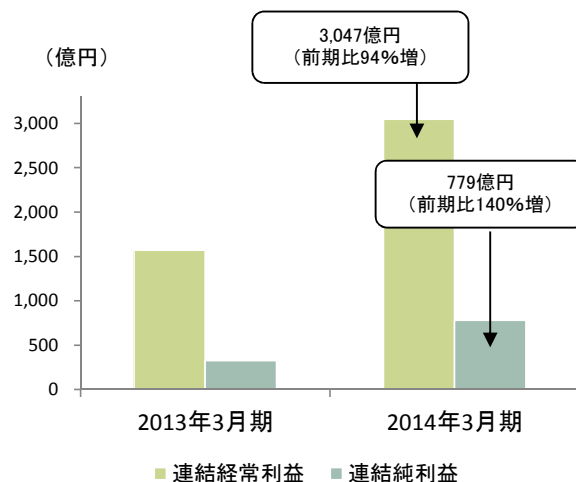


(2) 経常利益・純利益

連結経常利益は3,047億円(前期比94%増)、連結純利益は779億円(前期比140%増)となりました。

円安に伴う外国債券の利息の増加や、国内株式の配当収入増加に、一時的な要因も加わり、当社単体の逆ざやが順ざやに転じたこと等が連結業績を牽引しました。また、第一フロンティアでは預り資産残高が増加し収益力が向上しました。

経常利益・純利益 実績

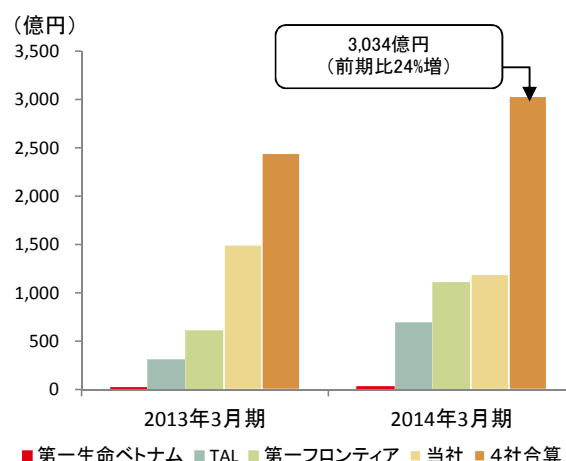


(3) 新契約の状況

新契約を1年あたりの保険料に換算した新契約年換算保険料は、当社(個人保険・個人年金保険)、第一フロンティア、TAL、第一生命ベトナムの4社合算で、3,034億円(前期比24%増)となりました。

当社単体では前期比で減少となりましたが、第一フロンティアでは、お客様ニーズを捉えた機動的な商品展開や販売委託先の拡大・関係強化を通じて販売を伸ばしました。また、TALでは、個人保険、団体保険ともに増加しました。

新契約年換算保険料 実績

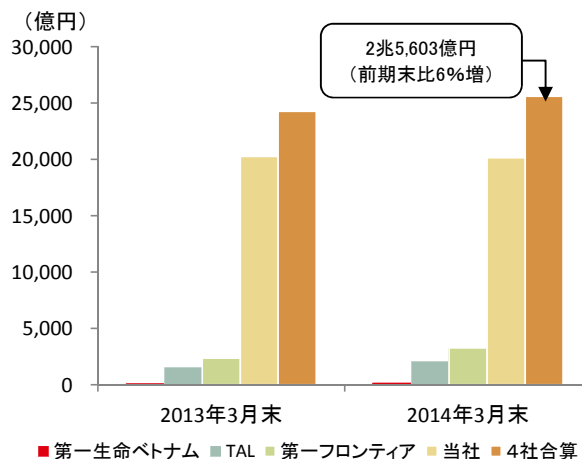


(4) 保有契約の状況

保有契約を1年あたりの保険料に換算した保有契約年換算保険料は、当社単体、第一フロンティア、TAL、第一生命ベトナムの4社合算で、2兆5,603億円(前期比6%増)となりました。

当社単体の保有契約年換算保険料は、前期末比で微減となりましたが、うち医療保険等第三分野は同3%増となりました。第一フロンティアは同38%増、TALは円ベースで同32%増等、成長分野の保有契約年換算保険料はいずれも増加しました。

保有契約年換算保険料



(5) 含み損益

当社単体の一般勘定資産の含み損益(2014年3月末)は、3兆505億円となりました。

前期末と比較すると、国内金利が上昇したため、国内債券の含み益は減少しましたが、国内外の株価の上昇と円安を受け、国内株式と外国証券の含み益は増加しました。

含み損益(当社単体、一般勘定)

(億円)

	2013年 3月末	2014年 3月末	増減
有価証券	28,144	30,056	+1,911
うち国内債券	16,275	13,813	△2,462
うち国内株式	6,433	9,318	+2,884
うち外国証券	5,050	6,422	+1,371
不動産	214	482	+267
その他共計	28,339	30,505	+2,165

(6) ソルベンシー・マージン比率^(注)

当社単体のソルベンシー・マージン比率(2014年3月末)は、有価証券の含み益拡大と、内部留保の積み増し等により、前期末比56.9ポイント改善し、772.1%となりました。

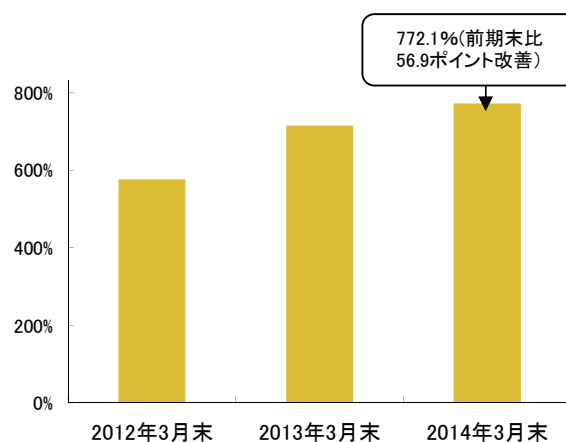
(注)ソルベンシー・マージン比率とは？

ソルベンシー・マージン比率とは、通常の予測を超えて発生するリスクに備えて「支払余力」がどの程度カバーされているかを示す行政監督上の指標のひとつです。

具体的には、生命保険会社が抱える保険金等のお支払いに係るリスクや資産運用に係るリスクなど、多様なリスクが通常の予測を超えて発生した場合、資本などの内部留保と有価証券含み益などの合計(ソルベンシー・マージン総額)で、これらリスク(リスクの合計額)をどの程度カバーできているかを指数化したものです。

同比率の算出は、ソルベンシー・マージン総額をリスクの合計額で割算して求め、同比率が200%以上であれば、健全性についてひとつの基準を満たしていることを示しています。

ソルベンシー・マージン比率の推移

(7) エンベディッド・バリュー(EV)^(注)

第一生命グループのEV(2014年3月末)は、前期末に比べ約9,500億円増加し、4兆2,947億円となりました。

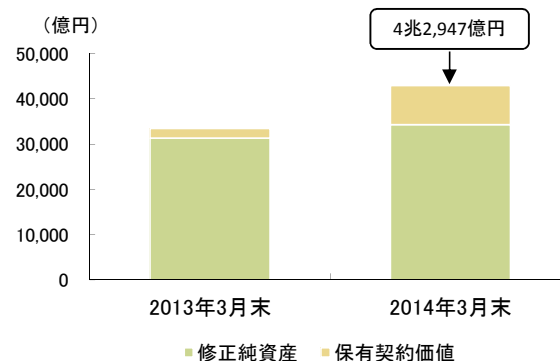
前期末比でEVが増加した要因は、新契約の獲得と金利上昇に伴い保有契約価値が増加したことと、株高・円安に伴う含み益の拡大により修正純資産が増加したことです。

(注)エンベディッド・バリュー(EV)とは？

当社グループは市場における当社の企業価値を測る指標として、EVを開示し、その向上に努めています。

現行の生命保険会社の法定会計では、新契約獲得から会計上の利益の実現までに時間がかかります。通常は契約の初期に販売手数料等の費用の大部分が発生する一方で、生命保険の契約は20年、30年と非常に長期にわたるため、時間の経過にもなって収益が発生し、長期間で収益を上げる仕組みとなっています。EVでは、この将来にわたる利益貢献を現時点に割り戻して認識するため、法定会計による財務情報を補強することができると考えられています。

エンベディッド・バリュー(EV)

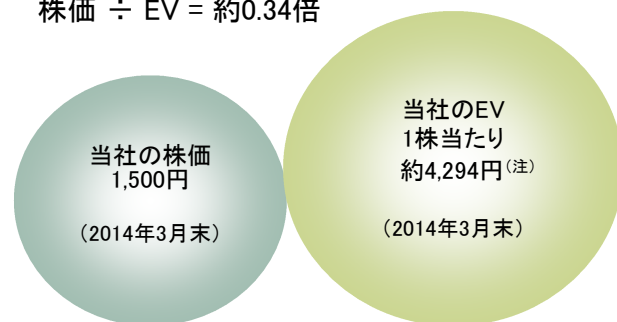


(8) 株価EV倍率

株価をEVで割って求めた株価EV倍率(2014年3月末)は、約0.34倍となりました。

株価EV倍率(2014年3月末)

株価 ÷ EV = 約0.34倍



(注) 当社の1株当たりEVは、当社グループのEV4兆2,947億円(2014年3月末)を、当社の発行済株式数約10億株で除して算出したものです。

(9) 業績予想

2015年3月期の連結業績は減収・増益を予想しています。

金融・経済環境に関し慎重な見方をしていること等から減収を見込んでいます。

一方で、第一フロンティアの収支改善や海外事業の順調な利益拡大を見込み、純利益は増益を予想しています。

株主配当については、前期の1株当たり配当案20円から、2015年3月期の配当予想を25円としました。

連結業績予想

	(億円)		
	2014年3月期 (実績)	2015年3月期 (予想)	増減
経常収益	60,449	53,490	△ 6,959
経常利益	3,047	2,460	△ 587
純利益	779	800	+20
(円)			
1株当たり(※1) 純利益	79	81	+2
1株当たり 期末配当金	20	25	+5

(※1) 1株当たり純利益の計算に際しては、株式給付信託(J-ESOP)により信託口が所有する当社株式及び信託型従業員持株インセンティブ・プラン(E-ship®)により第一生命保険従業員持株会専用信託が所有する当社株式を除いています。

免責事項

本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または暗示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。